



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2025~2026 年度 高山中央 RC 会長テーマ

親睦・学び・成長・奉仕 ~地区と地域の未来を考えて~

よいことの
ために
手を取りあおう



◆会長 都竹 太志 ◆幹事 井ノ下 雄志 ◆会報委員長 今井 哲也 ◆会報担当 三枝 祥一

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階
TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30~

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1412回	56名	56名	44名	——	78.57%
前々回 1410回	56名	56名	56名	0名	100%

●点 鐘

●ロータリーソング

我らの生業

●高山中央ロータリークラブ職業倫理基準

●ビジター・ゲストの紹介

●会長の時間 会長 都竹 太志

テーマ:「継ぐ」から「つながる」へ、そして「育てる」へ
皆さま、こんにちは。

本日も例会にご出席いただき、
ありがとうございます。

今日は少し重い話になります
が、「家督継承」や「お墓の問題」
を交えたお話しをしたいと思
います。

これらは一見、家庭や個人の問題のように見えま
すが、実は日本社会全体が抱える“つながりの断
絶”の象徴であります。

今日はそのことを、「人と人とのつながり」という
視点から考えてみたいと思います。

最近、私が強く感じるのは、「人の死」と社会との
関わり方が変わってしまったということです。

昔は、葬儀は地域の営みでした。誰かが亡くなれば、
町内の人たちが総出で駆けつけ、色々と手伝い、共
にお経を唱え、涙を流しながら故人を見送る。そこ
には、「人が生きた証をみんなで確かめる」温かさ
がありました。ところが今では、家族だけの小さな
葬儀が主流です。

静かに焼香を済ませ、隣の人と目を合わせること
もない。

感染症対策から始まった変化でしたが、今ではそ
れが当たり前になり、「心を合わせる場」そのもの
が失われつつあります。

葬儀とは本来、故人と共に生きてきた時間を振り
返り、自分自身がその人生とつながっていたこと
を感じる場です。

けれども今は「迷惑をかけない」「手短に済ませる」



が優先され、通夜や葬儀の知らせすら届かないこ
ともあります。

人が亡くなっても、社会に何の波紋も残らない
——そんな“無風の別れ”が増えていきます。

その延長にあるのが、「家」や「墓」の問題です。
家を継ぐ人がいない。墓を守る人もいない。
実家は空き家となり、墓は無縁仏に。

総務省の統計によりますと、令和5年10月1日現在、日本の空き家数は900万戸、住宅全体の13.8%。高山市での空き家数は、なんと8,220戸、空き家率は21%に達しており、もはや個人の努力では解決できない社会構造の問題となっています。
そして、さらに深刻なのが「人と人とのつながりの希薄化」です。

内閣府の調査では、60歳以上で「親しい友人がいる」と答えた人は6.5%。1割にも満たないそうです。

職場を離れ、子どもも独立すれば、日々の会話が減
り、誰とも言葉を交わさず一日が終わる——。

こうした“静かな孤立”が、家や墓の問題の根っ
こにあるのではないでしょうか。

「迷惑をかけたくない」「一人でも生きていける」と
いう思いは美德のようでいて、実は人との関わりを遠ざけてしまします。

けれども、人は誰かと関わることでこそ、自分の存
在を確かめられる。

家を継ぐという行為も、財産を守ることではなく、
「人と人がつながる文化」を受け継ぐことにはか
なりません。

だからこそ、“形を継ぐ”から“心をつなぐ”へ、
意識を変える時です。

そしてこれから時代に必要なのは、その“つな
がり”をさらに「育てる」力です。

人生100年時代。

定年後の時間は「余生」ではなく「もう一つの人生」
です。

「これまでの経験を活かしたい」「地域の役に立ちたい」——そう願う人が増えています。お金や肩書ではなく、人と関わる時間こそが豊かさの源です。テレビやスマホに頼る“受け身の余暇”も楽ですが、そこには成長はありません。一方で、学び、動き、人と関わる“能動的な余暇”は、努力の分だけ喜びが生まれます。退屈を恐れず、自らの手で時間を育てること。それが本当の豊かさにつながるのだと思います。企業の世界でも、今や価値の中心は「守る」から「育てる」へ。土地や設備よりも、「知恵」「技術」「信頼」といった“形のない資産”が力を持つ時代です。SNSで誰とでもつながれる今だからこそ、私たちは“本当のつながり”を問い合わせ直す必要があります。顔を合わせ、声をかけ、共に時間を過ごす——その中にしか信頼の温度は宿りません。家を継ぐことが難しくても、心を継ぐことはできます。墓を守れなくても、祈りの文化を守ることはできます。葬儀の形が変わっても、「人が人を想う営み」を絶やさなければ、社会は冷えません。——「継ぐ」から「つながる」へ、そして「育てる」へ。絆は、与えられるものではなく、手間をかけて育っていくものです。掃除に参加する、葬儀に顔を出す、近所に声をかける。そんな小さな行動が、地域をあたため、未来をつくります。どうか皆さんと共に、形あるものを大切にしながら、形のない絆を次の世代へと育てていきたいと思います。本日もご清聴、ありがとうございました。

●幹事報告 幹事 井ノ下 雄志

◎国際ロータリー第 2630 地区

ガバナー事務所より

- ・地区大会参加の御礼
- ・ロータリー文庫より文庫通信 395 号発行のご案内

◎ロータリー米山記念奨学会
より

- ・ハイライトよねやま 308

○高山ロータリークラブより

- ・高山 R C 創立 70 周年記念事業
「谷口裕和記念講演会」のご案内
- 高山西ロータリークラブより

- ・創立 60 周年式典・祝賀会ご臨席の御礼状

<高山青年会議所より>

- ・創立 70 周年式典ご臨席の御礼状

●3 分間スピーチ

久々野 國良



●奉仕プロジェクト委員会

担当理事 中屋 出

皆さんこんにちは。奉仕プロジェクト担当理事の中屋です。本日はロータリー財団委員会の担当例会です。



ロータリー財団は、国際ロータリーが設立した非営利の慈善団体で、「世界で良いことをする」という理念のもと、平和推進や人道的課題の解決に取り組んでいます。財団の活動分野は多岐にわたり、教育支援、疾病予防と治療、母子の健康、きれいな水と衛生環境の整備、地域社会の発展、経済的自立支援、そして平和構築などが中心となります。これらの活動は、世界中のロータリアンや一般市民からの寄付によって支えられています。

特に有名なのは皆さんもよくご存知の「ポリオプラス」計画で、世界からポリオを根絶するために各国政府や WHO、ユニセフなどと連携し、予防接種の普及に尽力してきました。その成果として、ポリオ常在国（エンデミック）はアフガニスタンとパキスタンの 2 カ国にまで減少し、世界的な健康改善に大きく貢献しています。

また、ロータリー財団は奨学金制度にも力を注ぎ、平和・紛争解決研究を行う「ロータリー平和フェロー」を育成することで、将来の国際社会を支える人材を育てています。財団は透明性と持続的支援を重視し、寄付金の効果を最大限に生かすための厳格な審査と運営を行っています。地域と世界が協力し合うことで、より平和で豊かな社会の実現を目指している組織です。

本日は井辺ロータリー財団委員長のもと、みなさんと学びを深めていきます。

●ロータリー財団委員会
委員長 井辺 直義



ロータリー財団の使命

国際ロータリーの使命

職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて人々に奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することです。

ロータリー財団の使命

ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。

3

<ニコニコ BOX>

10/30 結婚記念日、11/6 妻の誕生日、お祝いを頂きありがとうございました。 平林 英一

47回目の結婚記念日を無事迎える事が出来ました。ありがとうございます。あと3年で金婚式、身体も頭も元気であります様に。 山本 辰男

誕生日プレゼントと結婚記念日お祝いを頂き誠にありがとうございました。 高原 清人

妻の誕生日にお花が届きました。ありがとうございます。 高橋 厚生

先週は講習会参加のため地区大会報告が出来ずすいませんでした。何とか5分前に講習会に間に合いました。 小出 貴博

腕のせいですが、少しでも上手くならないかとドライバーを新しく調達しました。パシーンと当たります様に。 都竹 太志

マナーモードにしてなかったので罰金1,000円也～ご迷惑をお掛けしました。 高木 純

ロータリーカードの推進

The Rotary Foundation

ロータリーカードは国際ロータリーの最大の奉仕活動であります「ポリオ根絶」のための資金を確保することです。

ロータリーカードで20,000円使っていただくとポリオの経口ワクチン（約60円）1本分がカード会社からR I（国際ロータリー）へ寄付されます。

ロータリー財団の寄付

• 世界平和のために
• ポリオ等疫病を根絶するために
• 災害を救援するために
• 次世代を担う学生を支援するために

ロータリー財団への寄付は
「未来への投資」
ご支援ご協力をお願い致します。

The Rotary Foundation

力を合わせて
世界でいいことをしよう